

News Letter

NEWS LETTER No.45 April 2015

▶ 青少年健康センターは今年30周年を迎えます	1
▶ 事務局長就任のご挨拶	2
▶ 平成27年度事業計画	2
▶ 平成27年度予算案	3
▶ ご支援のお願い	3
▶ Center News	4

青少年健康センターは今年30周年を迎えます

会長 齋藤 友紀雄

若者支援のさらなる拡充を目指して

青少年健康センターの創設は1985年でしたから、本年でちょうど30周年を迎えることとなります。

これに先立つ昨年度、2014年は画期的な年でした。

まず内閣府から公益社団法人としての認可を受けたことです。この結果、ご寄付をされている数名の方から、さらに多額のご寄付をいただきました。公益法人ゆえにご寄付については大幅な税法上の優遇措置が期待できるからです。さらに昨年度はすでにご報告しましたように、世田谷区と文京区から大型の事業委託を受け、事業・予算規模も従来の3倍にもなりました。

行政からの財政的支援を受けるには、公益法人であることを条件とはしませんが、こうした事業委託は当法人に事業に対する社会的信頼の表れであると言えます。

有給職員もボランティアたちもみな頑張ってくれました。ここから感謝と労いの思いを伝えたいものです。また「メルクマールせたがや」をはじめ総務、経理部門での新しいスタッフたちが、慢性的な赤字を解消するなど業務の改革に努めています。それにしても有給・無給にかかわらず、献身的に働いてくれる有能な人材がいるからこそ可能になったと信じております。30周年を迎える年度初頭にあたり、こうした労苦に少しでも報いることができるよう、募金や資金活動を推進したいと願っております。資金をもって支えてくださる個人、団体の皆さまや、関係行政機関に引き続きご支援をいただきたくお願い申し上げます。

自殺者が減少し始めた

「クリニック絆」は、篤志家のご支援をいただいて、2012年3月に開設されましたので、この3月で満3年を迎えました。この3月末までの相談数は1,600件に達しました。2010年以降日本の自殺者数は減少傾向にあるにもかかわらず、若年層の自殺者はむしろ増加傾向にありますので、若年者対象の「クリニック絆」を開設した経緯があります。そのような理由から「クリニック絆」については、内閣府自殺対策会議や東京都

自殺対策総合会議に毎回報告している関係で、各方面から注目されております。

最近WHO（世界保健機関）が日本の急激な自殺者数の減少に驚き、急遽、WHO加盟の主要国の自殺対策担当者が東京に集まり、日本側の報告を聞こうということになりました。日本も自殺減少の科学的エビデンスを明快にしなければなりません、わが国の自殺対策がやっと成果を挙げてきたと言えるでしょう。

「いのちの電話」や「クリニック絆」など、われわれ民間の自殺予防活動についても、行政を動かすなど、大きな成果を挙げたことを喜んでおります。

青少年健康センター開設のころ

青少年健康センターは1980年代初め、不登校や無気力など青少年の問題行動が深刻になりつつあった時代、当時筑波大学で教鞭を執っていた故稲村博（精神医学者）らを中心に医療、教育分野の臨床家、研究者らが集まり組織されました。この30年の間多くの若者たちが巣立っていっただけでなく、優れた臨床家も多く育ちました。昨年はこの種の団体としては初の公益法人化を果たし、また世田谷区と文京区から事業委託を受けるなど、モデル的な組織として各方面から注目されています。



この間、玉置正和（千代田化工建設元会長）夫妻から多大なご支援を受けたことを忘れることができません。こうした創業者たちの志をさらに受け継ぎたいものです。また皆様のご支援を仰ぎたいと願っております。



創立のころ
初代会長：平野龍一（元東大総長）夫妻
右は玉置明子夫人

事務局長就任のご挨拶

事務局長 時盛昌幸

今年度より、佐藤彰前事務局長の後任として、事務局長に就任いたしました時盛でございます。国内における青少年支援団体の草分けである、青少年健康センターの事務局長に任じられましたことは、大変光栄に感じるとともに、責任の重さに身の引き締まる思いです。



私は昨年10月に、法人の抱える慢性的な債務超過の改善および組織改革を実現すべく、齋藤会長より運営本部長の役割を命じられました。結果、昨年度末には債務超過の解消、責任と役割が明確になった新しい組織での法人運用が達成され、公益社団法人としてふさわしい経営基盤の確立がなされました。これも一重に、当法人の役職員の皆さまの多大なるご理解ご協力の賜物であり、この場を借りて心より御礼申し上げます。

さて、このたび私が事務局長を務めるにあたり、次の3つの運営目標を掲げ業務に邁進したいと存じます。

【目標1】公益社団法人にふさわしい健全な法人経営の実現：主に法人組織における責任と役割の明確化、経理の適用運用、関連法規を遵守した法人経営を行います。

【目標2】スタッフが支援を継続できる労働条件の改善：社会保険制度への加入、退職金制度の整備等に加え、労働に見合った適正な待遇の整備を早急に目指します。

【目標3】安定的な法人経営の礎となる寄付金受け入れ制度の整備：可能な限り多くのご支援者からのご寄付をお寄せいただけるよう、インターネットなどを活用した寄付金受け入れ制度を早急に整備します。

本年は、青少年健康センター設立30年の節目となる記念すべき年であります。次のメモリアルイヤーとなる40周年、そして50周年を目指すべく、微力ながら法人経営の一翼を担ってまいりますので、引き続きましてさらなるご指導・ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。

公益社団法人 青少年健康センター 平成27年度 事業計画

①ひきこもり等生きづらさを抱える若者に関する知識の普及啓発を目的とする事業

◎思春期カウンセリング講座

思春期・青年期を専門とする実践的カウンセラーの養成と同時に、家族、特に母親のカウンセリングマインドの育成を目標としています。

◎実践的「ひきこもり対策」講座

当法人参与精神科医・齋藤環氏を講師に、親や家族が「若者のひきこもる心」を理解する為の理論を学び、具体的な対応・支援方法について学ぶ家族会を月一回開催、機関誌も発行して会員に配布しています。

◎講演会・シンポジウム

青少年問題に関する知識の普及・啓発に役立てるため、内外の専門家を招き、毎年、講演会・シンポジウムを開催し、その記録は小冊子にまとめています。

②ひきこもり等生きづらさを抱える若者への相談・居場所支援事業

◎心理相談（茗荷谷クラブメンタル部門相談）

ひとりで悩まないためのひきこもりサポート相談室を開いています。

◎居場所事業（茗荷谷クラブ）

臨床心理士・精神保健福祉士等の資格を有するスタッフを中心に、ひきこもり等を抱える若者に週2回（水・金）居場所を提供しています。加えて月曜午後にはマンデークラブも運営し、既に就職し或いは通学している若者たちの週一回の息抜きの場として利用されています。

◎社会参加支援事業

ひきこもり等を抱える若者が社会に踏み出す段階での一連のプログラムを提供しています。グループワークで準備を行う「社会参加準備グループ」、それを経て、様々なジョブトレーニングの場を提供しています。

◎委託事業

「メルクマールせたがや」及び「文京区STEP」などの若者支援事業の委託を受けました。

③クリニック絆—若者のこころの危機を支えるため

自殺予防を主な目的とし、研修により認定された相談員が月～金の午後電話相談に応じ、必要に応じて土曜日午後は精神科医が相談を受けます。

本年度、スタッフ一同、強い意志を持って新たな発展のため積極的に取り組んで参りたいと思います。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

ご寄付に感謝報告

(平成 26 年 10 月～平成 27 年 3 月)

青少年健康センターは大勢の個人の方々のご献金、および助成団体はじめ会社などの助成金・ご寄付、補助金などによって支えられています。ここにここから感謝申し上げてご報告いたします（敬称略）。

【正会員】

今村 郁子 大塚 芳子 近藤 卓 笹原信一郎
 関川 俊男 藤堂 宗継 中島 聡美 能勢 孝子
 馬場 謙一 宮田タマ恵
 10名 計200,000円

【維持会員】

遠藤幸代子 尾崎ちづ子 生出 美穂 大塚 慶子
 奥山 孝 田中 邦子 堤 千里 徳江 逸子
 西村 四郎 原 佐恵子 柳下 弘 渡部実知子
 匿名希望 32名 計320,000円

【SW会員】

匿名希望 26名 計560,000円

【寄付・個人】

石村 愛子 伊豆 邦子 井出 道子 稲村 優子
 大田 修平 小西 光代 齋藤 務 齋藤友紀雄
 桜木 ユミ 佐々木迪淳 嶋田 大子 志村よう子
 高野 龍子 竹内 律 千葉 泰子 中村 彰
 西田 佳代 波多野瑞穂 藤井 忠幸
 匿名希望 23名 計1,496,000円

【寄付・団体】

阿佐ヶ谷教会 西川口教会 聖が丘教会 頌栄教会
 4口 計40,000円

ご支援のお願い

青少年健康センターは皆さまの尊いご寄付によって支えられております。これまで当センターをご支援下さった多くの方々、また企業団体の皆さまに心から感謝申し上げます。昨年4月に公益社団法人に移行し、税法上の寄付金特別控除ができるようになりました。この機会に一層のご支援を賜りたく、ここにお願い申し上げます。

本事業の目的に賛同し、支援して下さる会員を随時募らせていただいております。

- 正会員 年会費個人20,000円
 - ①法人50,000円/年 ②30,000円/年
- 維持会員 年会費個人 10,000円
 また一時の寄付でも結構です。
 （会員には当センター企画の講座などに優先的にご案内、割引など優遇いたします）
- 寄付金振込先
 - ①郵便振替（添付用紙の場合、振込料は無料）
 00180-6-546682
 - ②みずほ銀行 池袋支店 普通 2837720



公益社団法人 青少年健康センター 2015 年度予算案

(単位：円)

(1) 収入の部	予 算
科 目	金 額
1 基本財産運用収入	0
2 会費収入	1,500,000
3 寄付金収入	9,100,000
4 補助金・助成金収入等	9,400,000
1～4 計	20,000,000
5 事業収入	59,260,000
心理相談等	720,000
研修講座等	2,960,000
「茗荷谷クラブ」「カニツギ絆」「カムマルせたがや」	55,580,000
期間収入合計 (A)	79,130,000

(2) 支出の部	予 算
科 目	金 額
1 管理費	16,870,000
5 事業収入	62,260,000
心理相談等	910,000
研修講座等	1,770,000
「茗荷谷クラブ」「カニツギ絆」「カムマルせたがや」	59,580,000
期間支出合計 (B)	79,130,000
当期収支差額 (A - B)	130,000
次期繰越収支差額	130,000

Center News

平成26年 11月

- 文京区STEP事業家族向け講演会
「実践的ひきこもり講座」講演後個別相談会
講師：斎藤環（筑波大学教授）15日、60名
於文京区シルバーセンター
- 青少年健康センター運営委員会 19日
- 理論講座 中期「“ひきこもり家族”のライフプラン
2」19日、26日 講師：畠中雅子（ファイナンシャル
プランナー）24名 於真生会館
- 特別講座 中期「子どもの自尊感情といのちの教育」8日、22日、12/6日
講師：近藤卓（山陽学園大学人間学部生活心理学科
日本いのちの教育学会会長 当センター理事）8名
於当センター
- 齋藤友紀雄会長 日本臨床死生学会のシンポジウム
講師として講義 30日

12月

- 東京大学（下山晴彦教授）文京区男女協働子育て支
援児童青少年課、茗荷谷クラブ等協働事業「銀杏プ
ロジェクト」を実施、スタッフ6名が参加 7日
- 青少年健康センター運営委員会 10日
- 第2回チャリティ・バザー 20日 於センター
売上 20万円

平成27年 1月

- 株式会社シミズオクト（社会参加支援事業協力企業）
クラブのメンバーの常勤アルバイトに関する打ち合
わせ スタッフの倉島徹出張 17日
- 第30期東京都青少年問題協議会第1回専門部会 井
利由利理事が出席 20日
- 青少年健康センター運営委員会 21日
- 文京区ひきこもり等支援者情報交換会 お茶の水大
学青木紀久代准教授（東京都ひきこもりサポートネッ
ト所長）、跡見学園女子大学野島一彦教授らと茗荷谷
クラブから井利理事らが参集、交流会があった。
22日
- 「メルクマールせたがや」家族会 井利理事が講師
となり「ひきこもりに伴う諸問題について」と題し
て講演と質疑が行われた。24日

2月

- 齋藤会長 内閣府自殺対策官民連携協働会議に委員と
して出席 3日
- 茗荷谷クラブ・ボウリング大会 於東京ドームボウリ
ング場 13日
- 文京区STEP事業（ひきこもり支援事業）打ち合わせ
井利理事、倉光洋平出張 13日
- 茗荷谷クラブ メンバーによる創作演劇『とびらの向
こう』公演 於文京福祉センター 95名の観客があっ
た。15日

- 東京都青少年問題協議会第2専門部会
井利理事出席 16日
- 青少年健康センター運営委員会 18日
- 社会福祉法人三篠会 神楽坂高齢者福祉施設 クラブ
のメンバーのアルバイト請負打ち合わせ スタッフの
井利理事、倉島 出張 19日
- 青少年健康センター理事会 20日
- 2015年度の東京大学大学院臨床心理学コース実習生
受け入れを決定 20日
- 文京区支援事業・「社会資源」マップ作成会議 井利
理事、倉光が出張 27日

3月

- 第34回日本社会精神医学会開催（富山市）当センター
から、齋藤会長と齋藤環教授が出席した。齋藤教授は
「ひきこもり状態の子どもの同居する家族の高齢化と
支援ニーズに関する研究」と題して演題発表。5～6
日
 - 文京区社会福祉協議会第2回小地域部会 「地域で支
えるひきこもり支援」をテーマに講師として倉光が出
席。文京区におけるひきこもり支援を協議 6日
 - 理論講座 後期「発達障害が疑われる青年の社会適応
6日、13日、20日 講師：大島朗生（東京福祉大学心
理学部講師 臨床心理士）13名参加 於真生会館
 - 青少年健康センター運営委員会 18日
 - 齋藤会長 自殺総合対策東京会議に出席 20日
 - 池袋西口公園のフリーマーケットに茗荷谷クラブ出
店。メンバー O B 23名参加 21日
 - 今年度最後の月例『実践的ひきこもり対策講座』講師：
齋藤環 22日 51名参加 於筑波大学東京キャンパス
 - 東京都青少年問題協議会第3回専門部会
井利理事出席 27日
 - 特別体験講座 後期「聴き方訓練」28日
「クリニック絆」相談員研修会 講師：大塚芳子（異
文化カウンセリング研究所）17名参加 於林野会館
- ## 4月
- センターの常任理事倉本英彦医師（北の丸会理事長）
が歌舞伎町メンタルクリニック院長を兼務すること
なる 1日
 - 新入職員入社式 「メルクマールせたがや」でこの4
月から勤務する5人の職員の入社式が文京シビック・
ホールで行われた。 2日



発行・公益社団法人 青少年健康センター

〒112-0006 東京都文京区小日向 4-5-8 三軒町ビル 102 TEL: 03-3947-7636 / FAX: 03-3947-0766
<http://skc-net.jp> E-mail: info@skc-net.jp